



第1号 流通通信

～起業家精神～

新たな価値を創造し、社会の発展に貢献する

文責：長谷川 修 哉

編集：吉 田 研 二

3 学年 流通経済科 牛乳消費拡大にかかる見学会

日 時 令和6年4月23日（火）

対 象 3 学年流通経済科 36 名

見学先 大西牧場、市営牧場、ホクレン丸乗船場

【概要】

今年度からの新規事業「牛乳消費拡大事業」がいよいよスタートしました。本事業は産官学連携で実施されます。釧路市役所農林課、濱野販促企画、地元企業と連携のもと、牛乳消費拡大を目的に商品開発に取り組みます。

今回はその皮切りとして、大西牧場と市営牧場での酪農現場の見学、ホクレン丸乗船場での乳製品の流通の仕組みに関する座学を通じて、商品開発へ向けてイメージを膨らませました。

この度お世話になりました関係各所の皆様に、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

【生徒の感想】

今回の牧場見学やホクレン丸の映像を見て、現状の課題としっかり向き合っているんだと感じた。例えば、牧場の現状の課題として人手不足があげられ、その対策として機械化が思ったよりも進んでいたし、半自動の装置もつけられていて、少人数でも運営できるようしっかり考えられて作られているんだと思った。

ホクレン丸は実際に見れなかったが、全長173mという映像だけでも大迫力だった。そして、農協から牛乳工場に運ばれる途中でホクレン丸が関係し、重要な部分を担っているんだと改めてすごさを実感した。今日の1日は、これからの商品開発に向けて、リアルな声が聞けたから参考になった。(N. A)

大西牧場さんでは色々な牛舎をみたけど、小さい牛がいちばんかわいかった。大西牧場さんはほかの牧場に比べて外観なども綺麗で、欠かさずお手入れをしているのが伝わってきた。1頭1頭に名前がついているのも言っていて、牛に対しての愛がすごいと思った。また、搾乳なども昔に比べて便利なものになっていて、とてもすごいと思った。市営牧場の方では、まだ一頭も牛がいない状態の牛舎を見せてもらいたくさんのお話をきいた。



牛舎の中に草がたくさんひかれていたのは、牛の足のうらがつめでできていて、コンクリートのままだとすべってケガをしてしまう可能性があるから、草をひいていると聴き、すごいなと思った。ホクレン丸は、今回間近で見たり見学をすることができなくてとても残念だったけど、全長173mでトラックが48台乗るといっていて実際に見ると迫力がすごいだろうなと思った。今回学んだことを今後の授業でしっかりと活かしていきたい。(T. R)



今回、見学会に行って、大西牧場では朝、4,800tも牛乳がとれることにおどろきました。また、日本の酪農家が減っていたり、ホルスタインが乳牛の90%を占めている事を知りました。市営牧場では、市役所が持っている牧場ということを知って、農家から牛を預かる場所で、月齢で牛の年を数えるのにもおどろきました。また、牛の月齢は人間の年齢とだいたいシンクロしていることを知り、わかりやすかったです。ホクレン丸では見学ができず、動画と説明だけになってしまったけど、2隻のホクレン丸で鮮度を悪くしないために毎日運んでいて、船員は2ヶ月間家に帰れないことにおどろきました。釧路エリアの生乳が関東に300トン運ばれていて、他の地方の方に釧路の牛乳が飲まれていることがすごいなと思いました。今回学んだ事を生かして、また頑張りたいと思いました。(K. K)

今日の牧場見学では、あんな近くで牛さんをみるなんてないから、すごい新鮮だったし、楽しかった。昔は乳しぼりするのに手だったのに今では機械でできるなんて衝撃だった。いろいろな人の努力のおかげで、牛乳がおいしくのめていることに感謝だなと感じた。

市営牧場は広くて大きくて立派だった。病気の子が入る部屋も別につくられていて、牛舎の仕組みを学ぶことができた。牧場の方々は全部の質問に丁寧に答えてくれて優しかったし、本当に楽しかった。実はホクレン丸に乗ってみたいかったけど、動画もみて話を聞けたから良かったです。これからも牛乳をたくさん飲んで骨を丈夫にして、牛乳をつかった商品をつくれるよう頑張ろうと思います。(O. R)



【パワーフレーズ】～印象に残った言葉～

- ・子どもを産んだ牛のみ乳が出る (S.M)
- ・安心・安全な牛乳を搾るためには関わる人すべてが重要 (W.M)
- ・北海道は日本の食糧基地 (A.T)
- ・牛乳は鮮度が命 (S.S)
- ・ホクレン丸は2隻で20時間おきに毎日釧路と茨木を行き来している (Y.K)
- ・牛乳は新鮮さが大事 (Y.A)